



教えて!
Doctor
ドクター

テーマに関する素朴な疑問に
消化器内科の専門医がお答えします

Q&A

監修: 総合大雄会病院消化器内科統括部長
兼 内視鏡センター長
松山 恭士 医師

大腸 編

Q 毎年会社の検診で、便のヘモグロビン検査で陽性となりますが、大腸カメラによる検査を受ける必要はあるのでしょうか?

A 基本的には、大腸カメラによる検査を受けて頂く必要があると考えます。便潜血反応が陽性となり、その中でがんが見つかる割合は0.10~0.15%という報告もあります。また、がんはなくてもがんの元になるポリープ(腺腫)が見つかる方も多くいます。腺腫の段階で内視鏡的に病変を切除すればがん予防になるといわれています。当院では眠っている間に大腸の検査や治療を行う事が可能です。大腸カメラが以前つらかったり不安がある方は、担当医にご相談の上、ぜひ検査を受けて頂くことをお勧めします。

Q 大腸のESDの治療は、痛みはありますか?また治療を受ける際、特に注意すべき点がありましたら教えてください。

A 大腸ESDは大腸粘膜の粘膜下層を剥離するだけですので、お腹に手術の痕は残らず、痛みもありません。眠っている間に治療を行い、1週間程度で退院可能です。治療後も今まで通りの日常生活は可能です。ただし2週間ほどは後出血や遅発性穿孔(腸に穴が開く事)の可能性があると報告されていますので運動や飲酒などは控えて頂いています。



社会医療法人大雄会
地域健康情報誌 [テ・ア・テ]

Te・A・Te

特集

大腸がんとは?



撮影地: 稲沢市ドッグランカフェ ハッピーランド

施設紹介



総合大雄会病院

総合大雄会病院
〒491-8551 一宮市桜一丁目9番9号
☎0586-72-1211 (代)

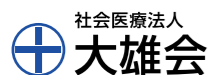
大雄会第一病院
〒491-8551 一宮市羽衣一丁目6番12号
☎0586-72-1211 (代)
健診センター ☎0586-26-2008 (直通)

大雄会クリニック
〒491-8551 一宮市大江一丁目3番2号
☎0586-72-1211 (代)

老人保健施設アウン
訪問看護ステーション・アウン
〒491-0101 一宮市浅井町尾関字同者165
老人保健施設アウン ☎0586-78-1111
訪問看護ステーション・アウン ☎0586-51-0031

新生訪問看護ステーション・アウン
〒491-8551 一宮市桜一丁目15番19号
☎0586-28-5633 FAX 0586-28-5634

大雄会ルーセントクリニック
〒451-6003 名古屋市西区牛島町6番1号
名古屋ルーセントタワー3F ルーセント・ウェルネスセンター内
健診センター(フリーコール) ☎0800-500-1211
外来 ☎052-569-6031



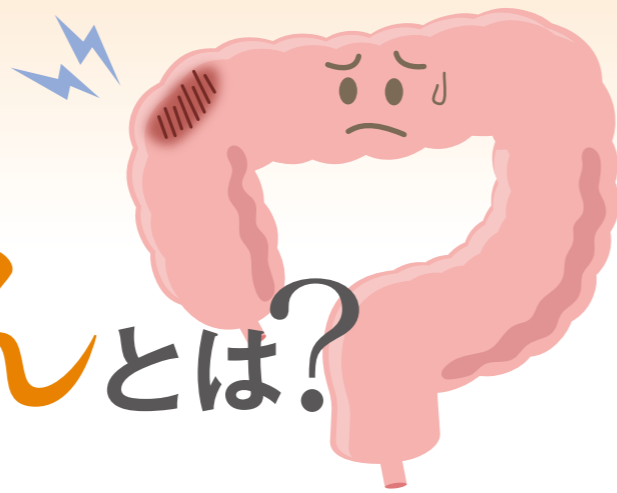
企画・発行: 社会医療法人大雄会 経営企画課
☎0586-24-2565 ✉pr1@daiyukai.or.jp

だいゆうかい

検索



大腸がんとは？



年々増加する大腸がんによる死亡者数は、40歳代から増え始め高齢になるほど多くなります。部位別に見ると大腸がんによる死亡数は女性では1位、男性は3位*です。大腸がんの原因は、一部には遺伝的素因も関与していますが、飲酒や肥満、加工肉を含む肉の摂取といった、環境的因子が大きいと考えられています。

※人口動態統計によるがん死亡データ(2018年)



総合大旗会病院
消化器内科統括部長
兼 内視鏡センター長
松山 恭士 医師

大腸がんとは

大腸がんは、長さ約1.5~2m程の大腸(口側から盲腸・結腸・直腸・肛門管)に発生するがんで、S状結腸と直腸に多いといわれています(図1)。

大腸の壁は便が接触する表面から順に、粘膜、粘膜下層、筋層、漿膜下層、漿膜の5層構造でできています(図2)。多くは一番内側にある粘膜から腺腫という良性のポリープができ、それが成長して大腸がんになりますが、正常な粘膜から直接がん細胞が発生するものもあります。胃がんと同様、がんが粘膜・粘膜下層までの場合は早期がん、それより深い場合は進行がんとなります。

図1 大腸の区分

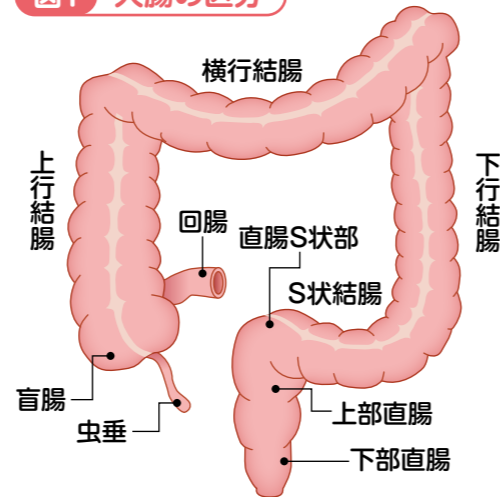
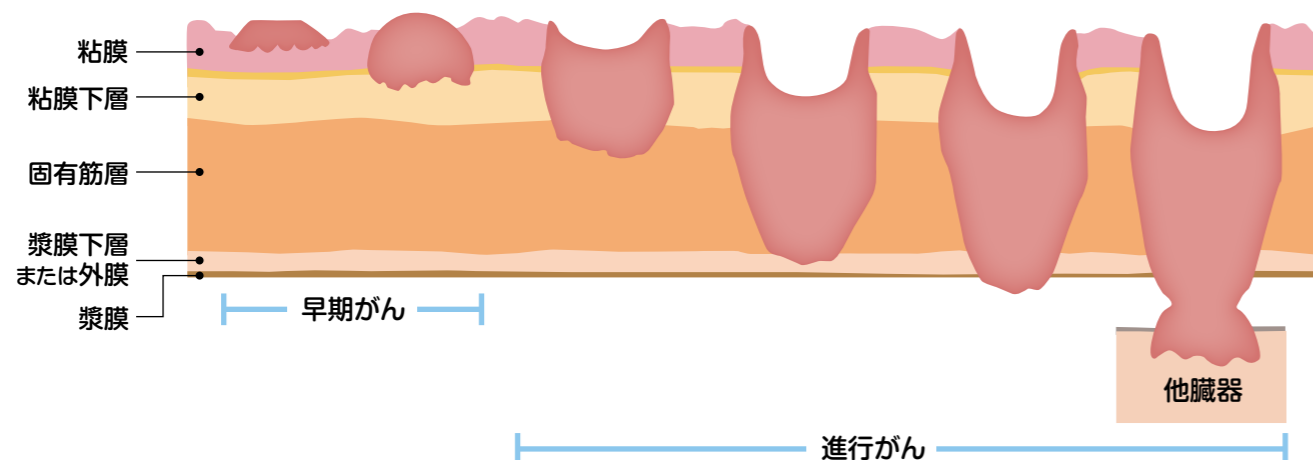


図2 大腸壁の構造及びがんの深達度

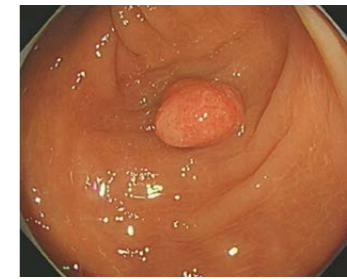


大腸がんの症状

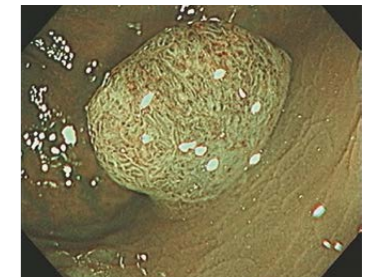
早期がんの場合、自覚症状はほとんどありません。進行すると、血便、下血、便が細い、残便感、腹痛、貧血、体重減少などの症状がでできます。症状として多くみられる血便は、痔などでも同様の症状を認めるため、早めに消化器科の受診をお勧めします。

大腸ポリープの治療

ポリープが大きくなるとがん化のリスクがあり、ポリープを切除する事で大腸がんが抑制されることが報告されています。当院では小さいポリープの場合は日帰りで内視鏡的治療を行っています。なお治療後は日常生活に差し支えはありませんが、1週間程度の禁酒や運動制限などが必要となります。



通常光による内視鏡画像。中央にあるのが大腸ポリープです

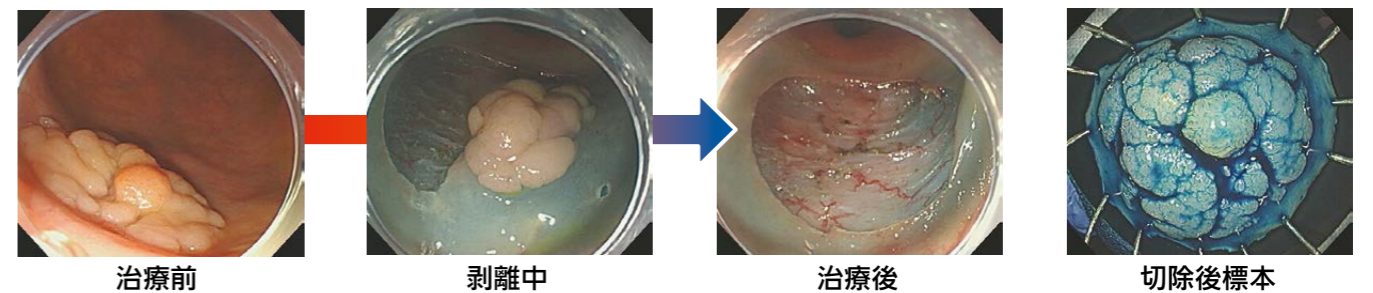


狭帯域光観察(NBI)といった特殊光を用いた最新の内視鏡画像約80倍まで拡大できます

大腸がんの治療

大腸がんの治療には内視鏡あるいは手術による切除治療と抗がん剤による治療があります。当科では日本で開発されたESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)による内視鏡切除を早期の食道がん、胃がんと同様に積極的に行っております。内視鏡で病変を観察しながら専用の電気メスでがんの部分のみを切除する治療法です。1週間程度の入院は必要ですが外科手術に比べて入院期間は短く、大腸の表面のみを切除するので、おなかを開けず大腸は全て残ります。ただしESDは早期大腸がんの中でもリンパ節転移の可能性が極めて低い病変が対象となりますので、切除後の検査結果では追加で外科的治療が必要になることもあります。

大腸ESDによる内視鏡切除



最後に

大腸がんは早期発見とポリープ切除が大切です。当科では鎮静剤を用いて苦痛の少ない内視鏡検査を心がけております。以前大腸カメラの検査時に痛かった方や検査に不安がある方には、鎮静剤を使用して眠っている間に検査を行っています。鎮静剤使用後は当日のお車や自転車などの運転はできませんが、まずは担当医にご相談ください。

